



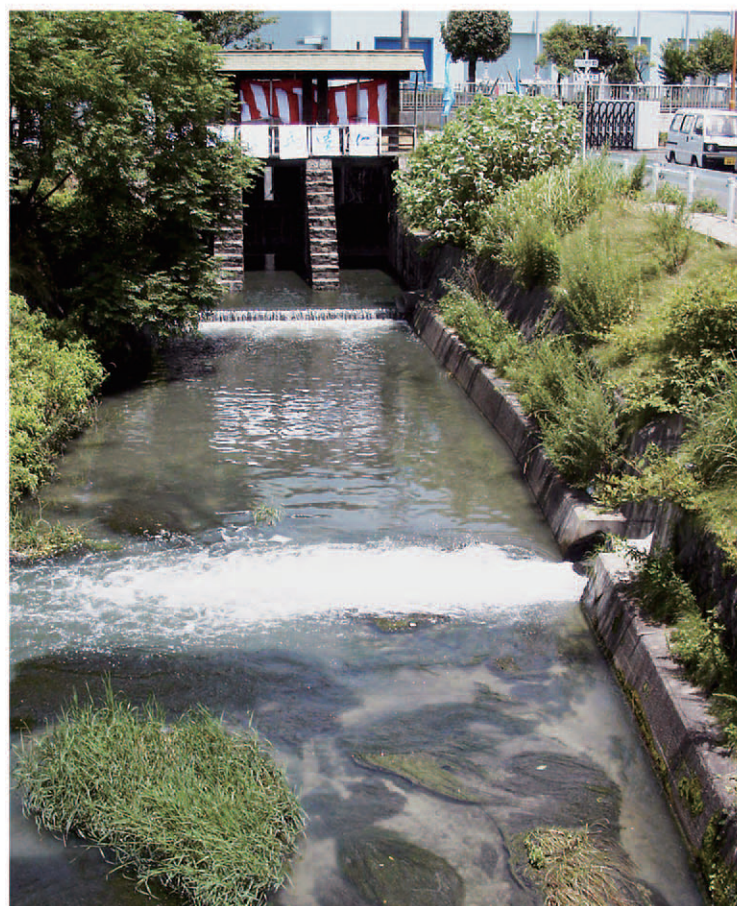
上飯田連絡線は名鉄小牧線と地下鉄を連絡するために整備された路線である。

昭和6年に開業した小牧線は上飯田駅が終点であり、ほかの鉄道につながらない不便な路線であった。昭和19年に市電御成通線ができ、上飯田から平安通を経て大曽根まで運行したが、46年に地下鉄名城線が市役所から大曽根まで開通することにより廃止されてしまった。人々は上飯田駅から地下鉄平安通の区間を歩くしかなくなったのである。

平成6年になると、念願の両駅を結ぶ鉄道を経営する「上飯田連絡線(株)」が設立され、8年から工事が始まった。地下鉄平安通駅から小牧線味鋺駅まで3.3kmの地下鉄道建設である。

このあたりは矢田川に近いので地下水位が高く湧水が多い。工事で湧き出す地下水を堀川に放流すれば、堀川の浄化にも役立つということで、平成10年9月27日から黒川樋門下流で放流が始まった。地下水なので非常にきれいな水である。落差工によって下流の水が来ない猿投橋より上流の堀川は、大都会のなかを流れながら山間部の溪流のような水質になった。

川底まで透き通る流れのなか、それまで見ることはできなかった水生植物が生い茂り、魚が真っ黒な群れをなして泳ぎ回るようになった。エビモやヤナギモが流れに揺れ、環境省から絶滅危惧種に指定されているオグラノフサモ、準絶滅危惧種のカワヂシャも見られた。水草の間をカマツカやオイカワなどが泳ぎ、川エビやモクズガニ、マシジミも現れた。



人々は堀川がよみがえったと喜び放流の継続を願ったが、工事が進み放流を止めざるをえなくなった。地下水の揚水管の位置が電車運行の障害となるので残す事ができなかったのだ。平成13年8月24日を最後に地下水の放流が停止され、3年間続いた溪流の堀川は姿を消すこととなった。せっかく改善された環境を少しでも良い状態で維持するため、放流中止に先立って、7月23日から庄内川の水0.3トン堀川へ暫定通水できるようになり、それは今も続いている。

清流が復活した黒川で撮影された生物



フサモ



ヤナギモ



カワヂシャ



カワヨシ



カマツカ



スゴモロコ